

令和7年度 佐倉市立志津中学校グランドデザイン

千葉県の教育目標

(「次世代へ光輝く『教育立県ちば』プランより」)

ちばの教育の力で、

- ①志を持ち、未来を切り拓く、ちばの子供を育てる
- ②「自信」と「安心」を育む学校をつくる
- ③家庭と地域の絆を深め、全ての人が活躍できる環境を整える
- ④世界を舞台に活躍する人材を育成し、「楽しい」「喜び」に満ちた豊かな社会を創る

佐倉市の教育目標

(「佐倉教育ビジョン」より)

- ①子どもの「輝く」力の向上をめざす【学校教育】
- ②子どもが「輝く」ための教育環境の整備・充実をめざす【教育環境】
- ③市民や地域の「輝く」力の向上をめざす【生涯学習】
- ④佐倉の「輝く」力の向上をめざす【文化・芸術】

学校教育目標

進んで学び、人間性豊かで、たくましく生き抜く生徒の育成

めざす学校像

- 1 明るい挨拶があふれる学校
- 2 思いやりを大切にできる学校
- 3 積極的に学習や行事に取り組む生き生きとした学校
- 4 凜として整った学校
- 5 地域から信頼され愛される学校

めざす生徒像

- 1 進んで学ぶ生徒
 - 授業に真剣に取り組み、自ら学ぶ生徒【勤勉】
 - 自分の進路に向けて努力し続ける生徒【進路】
- 2 人間性豊かな生徒
 - 礼儀正しく、自他共に大切にできる生徒【礼儀・思いやり・共生】
 - よく働き、人に尽くす生徒【勤労・奉仕】
- 3 たくましく生き抜く生徒
 - きまりやマナーを守り、目標をもって行動できる生徒【強い意志】
 - 健康・体力づくりに励む生徒【健康・体力】

めざす教師像

- 1 教師としての使命感を持ち、資質の向上に努める教師
- 2 生徒に寄り添い、生徒との対話に努め、一人一人の心に届く指導をする教師
- 3 教材研究に励み、常に授業の工夫・改善に努める教師
- 4 豊かな感性と社会性を身につけ、生徒や保護者、地域から信頼される教師

本年度の重点目標

- I 豊かな心で、成長を実感できる教育活動の実践
- II 安全・安心で信頼される学校づくり

学校経営の努力点及び留意点

1 学習指導

授業力向上・授業改善を通して、生徒の学習意欲を喚起し、確かな学力を身につけさせる。

- ◆「わかる授業」の実践により、基礎・基本を確実に定着させるとともに、生徒自身が身につけた力を認識できるようにする。
- ◆評価材料を生徒に事前に示すとともに、指導と評価の一体化を図れるよう努める。
- ◆ICTの計画的活用により、授業の効率化と生徒理解に繋げる。
- ◆生徒指導の機能を生かした授業を心がけ、生徒の意欲と主体性を引き出す。【自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安全・安心な風土】
- ◆ユニバーサルデザインの学習の視点を取り入れ、生徒個々に応じた「わかる」授業実践に努める。【焦点化・視覚化・共有化】
- ◆授業規律の徹底を図るとともに、全教科共通で学習の流れを確立する。
- ◆保護者と連携しながら、自学（家庭学習）の習慣化に取り組む。

2 生徒指導

生徒個々の思いや困り感に寄り添い、生徒の心に響く指導・支援に努める。

- ◆生徒指導事案が生じた際の組織的な対応のみならず、事案を想定した指導を心がける。
- ◆生徒の頑張りを評価したり、教室や部活動で存在感を認めたりすることで、自己有用感を高めさせ、好ましい人間関係を育てる。
- ◆「いじめ防止基本方針」に基づいた組織的な取組で、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。
- ◆道徳科の時間及び全教育活動を通して、自己と他者を大切にする心と規範意識を育てる。
- ◆不登校生徒・集団不適応生徒の減少に向けて、関係機関との連携も含めて全校体制で取り組む。
- ◆特別支援教育の視点で生徒個々の困り感や教育的ニーズを把握し、課題解決や改善に向けた適切な支援を行う。

3 学校運営・校務分掌

全職員が学校運営に参画し、「チーム志津中」の実現に向けて協力し合う職員集団をめざす。

- ◆志津中5本柱を職員も意識し、生徒を生き生きと活動させる。
- ◆危機管理を徹底し、生徒の安全・安心な学校生活を保障する。
- ◆目標申告シートや学校評価の項目を意識しながら業務にあたる。
- ◆感染症の拡大状況と働き方改革を念頭に置きながら、学校行事や生徒の活動を実施し、達成感や感動を全校で共有する。
- ◆不祥事根絶への意識を継続して持ち続け、倫理観・使命感の高揚に努める。
- ◆「佐倉型カリキュラム・マネジメント」を浸透させ、数年後まで見据えた教育活動の実施や、積極的な業務削減・改善を推進する。

4 調整・連携

職員間で連携を図るとともに、家庭・地域・近隣小中学校との連携により、信頼される学校づくりを行う。

- ◆職員間の情報共有を徹底し、率先してコミュニケーションを図る。
- ◆学年体制ではなく、全校で生徒と向き合う意識を持ち、積極的な情報交換を心がける。
- ◆積極的な情報発信に加えて、来校の機会や対面で話をする機会を増やすことで、保護者との相互理解や信頼関係構築に繋げる。
- ◆職員や生徒の負担増に注意しながら、地域への教育活動の公開や行事への参加を推進する。
- ◆学区小学校、近隣中学校との情報交換を学校運営の一助とする。
- ◆学校運営協議会を活用し、社会に開かれた教育課程の推進を図る。